

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401848		
法人名	おおいし 有限会社		
事業所名	グループホーム おおいし		
所在地	長崎県雲仙市愛野町乙1161番地2		
自己評価作成日	平成 28年 11月 15日	評価結果市町村受理日	平成29年1月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action=kouhvu_detail_2016_022_kani=true&JigvosvoCd=4271401848-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成28年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節ごとに外出支援を実施。その際外食支援も行います。
 年1回の秋祭りでは会社を上げて実施し入居者様や御家族様の運営推進委員の方・地域の方の参加を行っています。
 高台であり周りには自然が多く眺めも良いです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設14年目を迎えた当該事業所は、敷地内にデーサービスセンターと有料老人ホームを併設し、「想」の介護理念のもとに、地域の介護拠点として利用者が安心して楽しく過ごせる施設づくりを目指している。なかでも入居者やその家族と職員が心の触れ合いや家族のような関わりを大事にする支援においては、入居者や家族の話を聞く事を大事にし、外出や毎日の暮らし方等、思い思いに過ごす様子から入居者本意である様子が窺われた。入居者の高齢化や重度化に伴い、入居者それぞれに応じた対応も多様化してきている悩みもあるが、職員の資質向上を図りながら柔軟な対応ができるよう日々取り組んでいる。今年度は、更に柔軟な対応ができるよう日中の勤務形態を4人体勢に変更し、介護量が増えつつも更なるサービスの向上に取り組んだ。職員間のチームワークにすぐれ、明るい雰囲気が入居者に伝わる様子から今後ますます期待の持てる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 1

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「想」の理念を掲げ家族的で楽しくをモットーに支援を行っている。	開設当時より大事にしてきた「想」の理念のもと、入居者の尊厳をまもりながら心の触れ合いを大事にし、家族のように寄り添った介護に努めている。職員は入居者の事を心より想い、業務の中で理念に立ち戻りながら入居者を中心としたケアに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	愛野文化展に作品出展、地域の小・中学生の福祉体験受け入れ・同隣にあるデイサービスの利用者様との交流・秋祭り参加	散歩の機会や、隣接した通所施設利用者、また地域のいろいろな人と交流することが入居者の楽しみや生きがいに繋がっている。通所施設等事業所が地域や高齢者の憩いの場、集いの場となり、毎年の秋祭りでは地域住民が集まる賑やかなものとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営委員会・秋祭り等に地域の人に参加して頂き入居者様の状態を見られたり、質問等に答えてたり、地域の文化祭には利用者の作品を出展したり、職場体験実習などを受け入れも積極的に行っている。地域住民の方々と利用者を顔なじみ関係であり声掛けや協力を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議を活かして地域の町内会、民生委員の方にも参加して頂き、ホームの状況、認知症、介護保険等の実態を報告、説明等をして理解してもらえるように努めている。	会議では入居者の状況報告や行事等について説明され、運営の透明性が図られている。今年度はホームの避難場所や消火栓の場所を確認し、自治会の防災訓練にも参加する等防災意識が更に深まった。会議参加者と防災について双方向的な話し合いの機会が持たれ、災害発生時の認知症高齢者の避難受け入れ先について共通認識に繋がった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	職員採用時に雲仙市内の居住者を採用しながら各地域のイベントに参加しやすい方向に繋がっている。GH連絡協議の会議時等に入居者状況や相談等を行ったように心がけている。	管理者は保険者や他職種間等、関係機関との情報共有を図り、またGH連絡協議会では困難事例への対応について常に意識を持ちながら情報収集し、入居者が安心して暮らせるよう努めている。推進会議内で消火栓がホームから離れていた事を問題提議し、行政職員や関係部署との連携で消火栓設置に繋がった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠や身体拘束に繋がる行為は行っていないがやむを得ない場合は家族に説明、理解を頂いた上で実施、記録にとどめる。日中は施錠せず全入居者を目配り出来る位置で見守りを行っている。	入居者の重度化に伴い、見守りの必要性が増えている現状にあるが、今年度は職員の勤務体勢を整備したことで症状にゆとりを持って対処することができるようになった。地域住民からも入居者の離設に理解が得られ、地域での見守りの協力が得られている。本人の心情を理解しながらそれぞれに応じた対応を職員間で話し合い、不安や苦痛を取り除くケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会に参加したり、申し送り時に再度確認を行ったり、再度マニュアルの確認を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度に関しては理解しているが、今現在、活用する対象者が居ません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行い理解の上入居可能としている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	プランに取り入れている。面会時や電話、手紙での報告、運営推進委員会等で意見を聞き職員で話し合いケアに取り組んでいる。	面会の時には家族へ日頃の状況を説明し、また毎月職員が入居者の様子を便りて報告することによって家族の安心感に繋がっている。こまめに家族と繋がりを持つことによって、入居後も家族とともに本人の暮らしを支える意識を持ち、本人の本音や家族の要望を聞き取りながら改善策を話し合う取り組みがある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議において意見交換を行い、内容に応じては代表者へ報告し意見も頂き、会議にて報告するようにしています。	管理者は常に現場で職員と行動しながら、職員の意見に耳を傾け、チームワークを大事にし、職場環境を整えたり、勤務形態等の調整に努めている。職員の資質向上を図るため外部研修へ参加し、些細な気付けや支援の方法について職員で意見を出し合いながら支援を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の状況に合わせた労働時間の配慮や職員の親睦会等を行っている介護処遇給付を取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の為に研修、試験には積極的に参加させる。また研修内容についての研修記録を作成し他の職員への周知・報告体制を整えている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会の参加を行う事で、研修会・講習会などで交流する事で情報の交換が出来るようになる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後本人の状態を見極め話しかけたりしながら安心できるよう心がけている。御家族に面会后、要望や不安等を言われていなかったの確認を行う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族の要望を聞きプランに取り入れている。新たな要望に関してはその都度取り入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前・入居時サービスの確認を行うようにしています。入居後は入居者の行動、病状の観察を実施。状況に合わせて支援援助を行うようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	趣味や特技分野をいかして職員と共に楽しむ。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回お手紙を郵送していますが、面会時にも再度報告する事で密に関係をとるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの地域、外食や施設等の場所を取り入れながらホーム行事を行っている。また同隣にあるデイサービスの顔なじみのある方との交流を取り入れている。	受診や行事で外出した際には、入居者と一緒に今まで過ごしてきた町や食事処に出かけ、入居者が大事にしていた居心地の良い場所との繋がりを大事にしている。家族の協力を得ながら定期的に外出や外泊ができていた事例もあり、今後も本人や家族の意向を聞きながら繋がりが途切れないよう支援していく意向にある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入所者同士は隣同士に座って頂いたり配慮をし居室訪問にも繋げている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても協力医院での入院の場合は洗濯物をホームで行ったり又家族に変わり状況、状態の確認を行い連絡をとりあっている。他の施設への面会を行ったりしている。また、通夜・葬儀参列を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外出の希望等職員との話し合い等で意向を汲み取るよう努めている	入居者それぞれの日課を把握し、これまでの生活習慣を大事にしながら家族と相談しながらそれぞれの時間の過ごし方の選択ができるようにしている。日常的に入居者の声に耳を傾け、また仕草や表情からその方の心情を汲み取り、職員間で話し合いの機会を持ちながら思いの理解に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族からの聞き取り等に努めている。また利用者様から聞いたりしています。その後ご家族に再度確認することもあります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様に合わせた日課を行うようにしています。1日3回のバイタルチェック実施、15時にも体温測定を行いより体調の状態の把握等に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回の会議にて話し合いを持ち意見を取り入れられている。	今年度は、介護記録の書式を見直すことで、入居者の気付きが記録に反映され、更にご自身の過ごし方や課題についての理解が深まった。職員間で課題とサービス内容の関連を正しく理解し、家族と話し合いながら本人が持つ力が継続維持できるよう支援が展開されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個々の様子をカルテに記載。大切な事は赤で記載するようにしています。気づきは申し送り帳に記載情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族からの急な外出の希望等に対し柔軟に希望に添えるよう支援している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化祭出展		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医に通院出来るようにし医師とも連携を取っている。またご家族と協力し合い、かかりつけ受診を行うようにしている。	ホームや家族支援にて、これまでのかかりつけ医を継続受診行っている。病状や体調の変化は入居者が一番辛い事を理解し、職員は入居者の心身の状態をこまめに観察しながら適切な医療に繋げている。ホームと主治医がこまめに連携を図り、薬の調整や対応等気軽に相談できる関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の出勤日に報告・相談を行い対応している。又急な時は電話連絡を行い指示を伺う		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は施設職員が日々の状態報告を行うようにしています。ソーシャルワーカーとの連携を図り早期退院へ繋げています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針はあります。施設で対応出来るまでは施設で対応しています。	家族や主治医の意向にてホームでの看取りはないが、医療の必要性が増えるぎりぎりまで家庭的な環境で支援している。今後も看取りについて研修に参加し、対応や倫理観等職員の理解を深め、今後も医師や家族と相談しながら対応を検討していく意向にある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員救命救急の講習に参加し講習修了書を持っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	運営委員会時に火災訓練を実施している。コンセントのゴミの確認も掃除の時に行うようにしています。	避難訓練には運営推進会議出席者の参加があり、第三者からも入居者の避難状況や誘導方法の確認がなされている。職員は訓練ごとに避難誘導の手順を確認し、訓練内容を振り返りながらの次回訓練に繋げる取り組みがある。今年度は風水害への意識を強め、防災マニュアルを策定し、災害発生時の対策について職員間で共通認識を持つ機会を作った。	今回自然災害対策へのマニュアルを策定し、基本知識の習得や災害時の手順や対応について話し合いの機会が持たれたが、訓練実施には至っておらず、その有効性についての検証は不十分な状況であった。地域性を考慮しながら訓練を体験する事で情報の読解力や意思決定能力を高め、更に防災意識を高める取り組みに今後期待します。
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失禁時等さりげない声掛けで他の入居者に分からないようなトイレ誘導や居室からの洗濯物・汚染物等は新聞紙で包んで捨てる等配慮している	職員は入居者に対して目上の方である意識を持ち、家庭的な雰囲気の中にも声の掛け方や尊厳を持った態度で接することを常に意識している。今年度は言葉が持つ印象について話し合い、語調や語尾について、より注意喚起していくよう年間目標を掲げ取り組んだ。今後も意識しながら継続していく意向にある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中で本人の希望等さりげなく聞きだすようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望を取り入れベッドで休ませたりテレビ視聴されたり散歩に一緒に行ったりと支援している。入居者様に合わせた、起床・就寝・食事時間の変更を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員が同意した服を本人が嫌がったりしたら本人の気におる服に替えたりしている。男性入居者への髭剃りも行う。入居者様が準備して頂き、アドバイス等を行うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の能力により食事を飲み込みやすいよう、刻み食にしたりし食事と一緒に食べながら支援している。食事制限のある方には、ちがう物の提供を行ったり、ご家族と本人様、医師と話し合い好きな物を食べてもらうようにしたりしています。	家庭らしい手作りにこだわった献立は、おいしい物を提供したいとの施設代表の思いから旬の食材や彩りに工夫があり、入居者が食事を楽しめるような取り組みがある。食材の香りを楽しみながら豆剥き等入居者ができる仕事を職員と一緒に担い、部分的に入居者が力を発揮できる場面作りの工夫がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日三度の食事量・水分量をチェックし、ひとりひとりの状態把握に努めている。おやつ時・起床時の水分をチェックを行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後共同洗面所にて、うがい・歯磨きを行っている。ひとりで出来ない入居者に対しては職員が介助を行っている		
		排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりの排泄時間の把握に努めトイレ誘導をし、又、昼間は布パンツで過ごせるよう支援している	入居者ごとに排泄チェック表を確認しながら時間誘導を行い、トイレで排泄できるように支援している。日常生活の中で足あげ等の筋力低下を防止する体操を取り入れながら、トイレでの排泄が入居者の負担や困難とならないよう取り組みがある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄をチェックし水分の補給や運動、又は医師・看護師と相談しながらの調節を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週三回～四回の入浴を支援しているが、毎日入浴の準備はしており個々に対応している	入居者と相談しながら入浴日を設定し、思い思いに入浴できる体制がある。自力で入浴できる入居者に対しては、遠目での見守りを行いながら羞恥心への配慮がなされている。重度の入居者も浴槽で身体を温めることを重視し、職員2名で対応し、安全を考慮しながら血液の循環を良くし寛いで入浴できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はベッドでの休息やソファでの居眠り等、個々に対応している。又、夜間は眠くなるまでテレビ視聴する等その時に応じて対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についての説明書等わかりやすいカルテに閉じ目を通して。薬の服薬は職員が行い本人の体調に目を配っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手紙を書いたり・新聞・雑誌、習字の練習等入所様の好きな事に取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩、月一回程度は季節の見学等に実施に努めています。	入居者がホームの中だけで過ごすことなく、受診や行事で積極的に外出できるよう支援している。入居者からの提案で外食や地域のイベントに出かけ、入居者が気持ちよく過ごせるような工夫がある。季節ごとの行事や入居者が行きたい場所を選択でき、職員の勤務体制を整えることで思いを実現できる取り組みが印象的であった。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方は自己管理され外出等に使用されている。他の入居者様は外出時に職員管理のもと買物をしたりしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿って行っている(自由に電話使用可能である)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ロビーに季節の花を飾ったりし、カーテンの調節や温度の調節に努めている	入居者それぞれに居心地のいい場所に席の配置がある。自宅での寛ぎ方や馴染みのものを知り、その入居者が活動的に心地よく過ごせるよう支援している。車椅子でも楽に移動できる間隔で家具の配置があり、入居者の活動の妨げにならないような暮らしの場が整えられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関やロビーに椅子・ソファを配置し座ってテレビ視聴やおしゃべりができるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家で使っていたタンス等持ち込んでもらっている	居室は家族と相談しながら自宅との環境に近い飾り付けがなされ、入居者の個性が活かされた居室となっている。自宅で使用していた趣味の道具や調度品の持ち込みがあり、余暇時間をその人らしく過ごすことができ、心が穏やかに落ち着いて過ごせるような環境作りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレに手すりをつけたり、歩行器・車いすの貸し出しにより本人の力に合わせた支援を行っている。		